

「JFK」 隠された真実

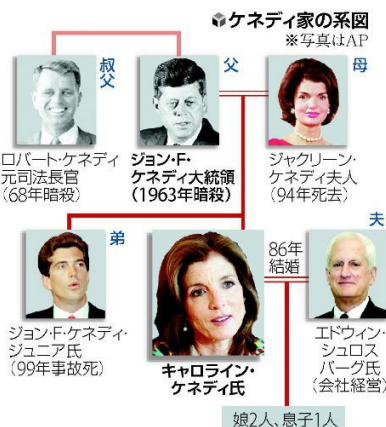
新しい年が始まりましたね。一か月のご無沙汰でした。12月はプライベートなことで忙殺されました。人、一人を送るのがこんなに大変なものだとは知らずにおりました。誰しも経験することですが、相当まいったのは事実です。てなことを言っても時は流れます。心機一転、頑張ってまいります。

さて今回のお題は「JFK」隠された真実としてお送りします。もちろん秋葉原で「女子高生



と一緒に散歩をしてくれる」の話ではありません。米国第 35 代大統領「John Fitzgerald Kennedy」その人です。彼は中学校時代の私のヒーローでした。もちろん暗殺をされてから何年も経っており、伝記本を読んでからのことです。ケネディ大統領（以下 JFK）はハンサムでキューバ危機から世界を救った男、として描かれていました。そして暗殺による突然の死。悲劇の大統領として今なお、変わらない人気を誇っています。昨年日本大使としてキャロ

誰がなんと言おうと超名門中の名門。
米国民に最も人気がある家族です



ライン・ケネディ氏は JFK の娘です。大人気ですね。

話は 1990 年代後半に情報公開された、キューバ危機を中心とした世界が核戦争一歩手前出会った時の状況を描きます。出典の多くは NHK BS1 で 5 回にわたって放送された「BS ドキュメンタリー」です。深夜の番組でしたのでご覧になられた方少ないかもしれません。

JFK は 1961 年に米国史上最も若い大統領になります。43 歳でした。少し時計の針を戻します。なぜ彼は大統領選挙に勝利することができたのでしょうか。29 歳で下院議員に当選、さらに、34 歳で上院議員に当選します。理想主義的なことを語り続けますが、それは莫大な資金力を持つ Kennedy 家のバックアップがあったからこそでした。しかし、議員時代にこれといった業績は残していません。無類の女性好きが原因だったのかもしれない。大統領選の相手は共和

党のニクソン氏でした。アイゼンハワーのもとで8年間の副大統領として実績を残しています。



政治家としての経歴は JFK をはるかにしのいでいました。事実大統領選の序盤ではニクソン氏が優勢でした。しかしこの時期に急速に普及したメディアがこの情勢をひっくり返し



た。テレビです。JFK とニクソンは二度にわたって「テレビ討論」を行っています。二度とも内容的には五分。しかし、**テレビ用のメイクアップを断ったニクソン氏が非常に病的に見えました。**また JFK はテレビ映りがよく見えるように専用のスタイリストを雇っていました。議論の内容はともかく、かっこよかったのです。もうひとつあるとすれば美しく優雅な妻、ジャクリーンの存在でしょう。一方、大きな問題となったのは彼がカトリック信者であったことでした。これまでの大統領は一人の例外もなく WASP（白人、アングロサクソン、プロテスタント）でした。選挙戦でも度々この問題に悩まされました。大統領選挙の結果は JFK3422 万票、ニクソン 3411 万票という稀に見る接戦でした。



大統領になってすぐに「ピッグス湾」事件が起こります。アメリカのお膝元でキューバが共産主義国家として誕生しています。これを脅威と受け取ったアイゼンハワー前大統領は、亡命したキューバ人を中心とした「義勇軍」にキューバに侵攻させようとしていました。結果は大失敗、軍部は米軍の介入を助言しますが JFK は拒否。公式にテレビで失敗を認めました。この正直さで彼の支持率は跳ね上がりました。わからないものです。この時彼は**自分の周囲が WASP で固められており、必ずしも大統領を認めていない**ということに気付かされます。特に軍部においてはそうでした。公然と「第二次世界大戦では中尉でしかなかった男」としてこき下ろされ



ていました。彼の擁護をしてくれるのは弟の司法長官ロバート・ケネディと特別補佐官に任命したアーサー・シュレジンジャーしかいませんでした。特にシュレジンジャーは著名な歴史学者であり世界で起きたあらゆる戦争を研究してきた、いわば「広い目」を持った人物でした。軍部はソ連との全面戦争を度々助言します。いずれやる戦争なら、まだ軍では優位である今やるべきだというのがその根拠でした。

しかし JFK は平和と共存に道を開こうとしていました。就任後、最初の国連演説で「このままでは人類は核兵器によって滅ぼされてしまう。そうなる前に核兵器を削減していこうではないか」とソ連に語りかけました。そして翌年、JFK とフルシチョフはウィーンで会談を開くところまでこぎつけました。しかし二回の会談はいずれも何の成果も上げずに終わります。一回目の

会談ではイデオロギー論争をしてしまったのです。イデオロギーの大家であるフルシチョフに勝



ち目はありませんでした。しかしこのふたりが直接会ってお互いを知り合ったことは非常に大きな成果だったのです。フルシチョフは「いまボールは米国の手の中にある」として具体的な行動を求めました。JFK はベルリンの壁を容認しました。世界中でベルリンの危機が世界大戦に結びつくのではないかと危惧していましたが、実際には世界戦争までの時計は針を少し戻していたのです。東ドイツから西側への住民の流出が止まったからです。これは 1993 年に情報公開された文書によって明らかになったことです。会議に参加していなかったジョンソン副大統領あてのメモでした。

一方キューバはソ連に救いの手を求めました。フルシチョフ首相はこれに応じます。秘密裏にキューバに核ミサイルを送り届けたのです。米軍の偵察機 U2 がキューバに建設中のミサイル基地を発見しました。軍部は「Clear and Present Danger」であるとし、直ちにキューバに対して侵攻することを迫ります。確かに当時のソ連製のミサイルや核弾頭は開発途上で長い距離を正確に狙うには実力不足でした。しかし、キューバからの発射であれば全米の都市がそのターゲ



ットになります。JFK は軍の警戒態勢をデフコン 2 にすることは許可しましたが、侵攻には拒否を続けます。軍部は第二次世界大戦でナチス融和措置を取った英国のチェンバレン首相の失敗に懲りていたのです。敵と融和をしたり隙を見せたりすることなど論外でした。しかし、JFK はあくまで平和裏の解決方法を探ります。彼がとった手段はキューバの海上封鎖でした。これ以上のキューバへのミサイル配備を防ぐ策に出ました。その上で「もしキューバからミサイルが飛んできたとしたらソ連の攻撃としてみなし、ソ連と全面戦争に出る」という演説をしました。これはフルシチョフに対するメッセージでした。フルシチョフには第二次世界大戦で命を落とした JFK と同じ年の子供がいました。ウィーンでは十分な成果を上げられなかった二人ですが、お互いが平和と共存することを願う人物であることを知っていたのです。



しかし世界は震え上がりました。空軍では常時 150 機の核爆弾を搭載した航空機がソ連をターゲットにし、地上では 1200 発のミサイルが用意されていたのです。世界大戦の始まりを告げる鐘はいつ鳴ってもおかしくない状態でした。しかし、この時 JFK はフルシチョフと秘密裏に交渉を続けていました。フルシチョフはトルコに配備された核ミサイルの撤去を求めます。これには応じませんでした。米国にキューバに侵攻する意思がないことを確約しました。キューバに向かってソ連の輸送船は一斉に引換しました。世界大戦はギリギリに避けられました。本当に危なかったのです。JFK は上層部に「自慢をするな、これは勝利ではない」と戒めます。さらにアメリカン大学での演説で「平和と共存」を呼びかけます。一部を抜粋します。

「私の言う平和とはどのようなことでしょうか。わたしたちの求める平和とはどのようなものでしょう。それは、アメリカの軍事力によって世界に強制的にもたらされるパクス・アメリカーナではありません。それは、墓場の平安でも、奴隷の安全でもありません。わたしは、真の平和、すなわち、この地球上での生活を生きる価値のあるものにする平和、人と国が成長し、希望を持ち、子孫のためにより良い生活を作り上げることのできる平和、アメリカ人のためだけでなく、世界中の人々のための平和、今の時代だけではなく、あらゆる時代での平和について話したいと思います。」

これを受けて米ソは「部分的核実験禁止条約」を締結します。デタントの始まりでした。この時も JFK は民間人のカズンズを使い、フルシチョフに明確なメッセージを送っていました。「共通の目標は戦争をしないことだ」と。

ベトナムでも同じようなことが起きていました。南北ベトナムへの米軍の侵攻でした。軍部は米軍の派兵を進言しますが、JFK は断固拒否をします。実は彼は大統領になる前にベトナムでのフランス軍とベトナム開放勢力との戦いを自分の目で見えています。その上で「民族主義の競争にはいかなる方法をとっても勝利することはできない」と感じ取っていたからです。しかし軍部は暴走し侵攻の規模を大きくしていました。結局、米国はジョンソン大統領の時にベトナムへの全面進駐の道をたどります。JFK がもしあの時銃弾に倒れていなかったら。世界は変わっていたのかもしれない。



キューバのカストロにもメッセージを送っていました。また民間人（それもフランス人のジャーナリスト）J・ダニエルでした。1963年11月22日にダニエルはカストロに会い、ケネディからのメッセージを伝えます。「共産主義者でいても構わない。でもソ連との同盟を続けるのであれば我々に見過ごすことは出来ない」その時、側近が飛び込んできて JFK が暗殺されたことを伝えます。その知らせを聞いたカストロは「平和の使者としても君の任務は終わった」と、伝えました。事実フルシチョフはモスクワを訪れてきたカストロに「彼は信頼がおける相手だ。彼は再選されるだろうから我々にはあと6年間の時間がある」と伝えていたのです。一方、フルシチョフは衝撃を受けました。暗殺を行ったのが誰であったとしても、JFK との信頼関係は失われ、誰が指揮をするにしてもあの緊張関係に逆戻りをするのではないかと。しかし、ケネディが作った道はその後の代々の大統領に受け繋がれました。次の戦争は世界の終りを意味し、共産主義者とも共存することができることを JFK が証明したからです。

さていかがでしたか？本年もよろしく申し上げます。お仕事もよろしく申し上げます。

株式会社アール・リサーチ 代表 柳本信一

Tel 042-300-0533 mobile 090-7428-8999 mail : ryubon@kkd.biglobe.ne.jp